みずほマーケット・トピック(2024年12月2日)

2025 年見通しのポイント~需給編その①~

2025 年の円相場見通しを検討する上で、需給環境をどうイメージしておくべきか。需給分析の主軸となる経常収支を掘り下げると、まず全体の仕上がりを最も規定しやすい貿易収支は原油価格と円安のピークアウトを背景として赤字縮小を予想。輸出増加を確信できない中、19 年以前の水準に戻るのは難しいが、25 年は▲3~4 兆円程度の赤字まで圧縮できると想定。第一次および第二次所得収支は予断を持つのが難しいため例年並みと置きたい。一方、近年の注目されるサービス収支については確実に期待できそうな変化が 2 つある。1 つが旅行収支黒字のピークアウト、もう 1 つがデジタル赤字を主軸とするその他サービス収支赤字の拡大継続だ。旅行収支黒字が現水準を維持できればサービス収支赤字は▲3.6 兆円程度と今年からやや膨らむくらいで済むが、人口動態を踏まえれば、近い将来のピークアウトは不可避だろう。一方で、デジタル赤字は従前の伸びを前提とすれば 25 年に▲8 兆円に肉薄する可能性がある。

~2025 年見通しのポイント: 需給編~

時節柄、2025 年の円相場見通しのポイントを尋ねられることが増えている。言及すべき論点は多岐に渡るが、基本的な考え方は①需給、②金利、③それ以外の 3 点に分けて整理すべきだろう。まずは従前から重視している①に絞って議論を進めたい。結論から言えば、現時点で入手可能な情報に基づく限り、2024 年並みの需給環境を見込んでいる(もちろん、本稿執筆時点では 2024 年の数字は確定していないので、筆者の試算を多分に含んでいる)。需給分析の要となる経常収支は資源価格、為替、相手国との景気格差、地政学リスク等々、多様な材料が集約されるため精緻な予想が困難だが、ラフなイメージでも提示しておくことには価値がある。昨年も同様にラフなイメージを提示したが、実情とは大きく乖離せず、見通し策定には有用であった。本日を含む 2 回の本欄を通じて、まずは 2025 年の需給環境に関し筆者なりの現時点のイメージを示したい。

まず、経常収支の仕上がりを最も規定しやすい貿易収支は原油価格と円安のピークアウトを背景として赤字縮小を予想する。貿易収支の仕上がりを考える上で最も大きな変数はやはり原油価格である。これに関し、近年の原油価格(1 バレルあたり)について通年平均の推移を見ると、2022年に100ドル程度、2023年と2024年は80ドル程度だった。2025年の原油価格を予想することは本欄では控えるが、中国経済不振に

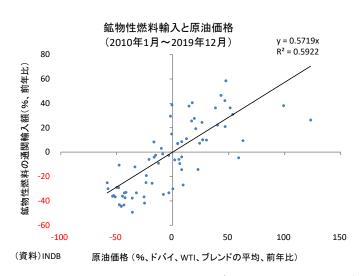


よる需要減退から下落を指摘する声は多い。その上で第二次トランプ政権による石油業界への積

極的な優遇策と増産要請もあって相対的に供給が優勢になるとの見方は多い(もっとも実際に増産に至るまでには長い年月がかかるはずだが)。逆に、トランプ氏の外交姿勢が地政学リスクを増大させ原油価格を押し上げるとの見通しもあるが、過度な環境規制の巻き直し、化石燃料の供給増加による資源価格下落というストーリーには相応の説得力がある。そもそも追加関税の応酬が世界経済の減速を招き商品全体への需要を押し下げるとの懸念も強く、これも合理的な予想である。

~70ドル割れが続いた場合~

実際、トランプ氏当選後の原油価格は 軟調推移しており、本稿執筆時点では断 続的に 70 ドルを割り込んでいる。例え ば、2025年が平均70ドルで推移したとす ると、前年比で約▲13%の下落になる。 平時という括りでパンデミック前の5年間 (2014年1月~2019年12月)の統計を 前提とした場合、原油価格が1%変化すると鉱物性燃料は0.6%程度変化するイメ ージになる(図)。原油価格が▲13%下落 した場合、鉱物性燃料の輸入は▲8%弱



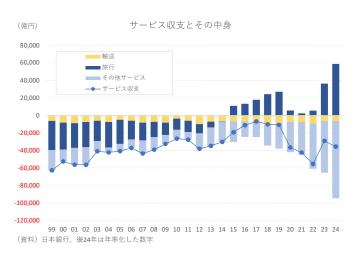
減少する計算になる。鉱物性燃料は輸入全体の約4分の1を占めるため、輸入総額は約▲2%押し下げられることになる。2023年の輸入金額は約110.2兆円であるから、2%相当は約2.2兆円の収支改善要因ということになる。これは原油だけの話であり、実際の影響は原料品(木材など)、原料別製品(鉄鋼や非鉄金属など)や化学製品(医薬品など)など、輸入構成比が大きな品目の単価にも影響が及ぶはずである。もちろん、これらはラフな試算に過ぎないが、70ドル割れの原油価格が横ばいで続けば、貿易収支全体には兆円単位の改善要因にはなる。

こうした輸入動向の想定だけに依存すれば 2025 年の貿易収支は改善する期待が大きい。しかし、第二次トランプ政権が仕掛ける貿易戦争の余波で世界経済の成長が抑制されれば、輸出の増勢も必然的に鈍るはずである。この点は全く読めない。特に日本に関しては、虎の子とも言える対米自動車輸出が目の敵にされた上で追加関税が課される懸念も燻る。その場合、収支全体の改善は限定される。輸出増加を確信できない中、2025 年の貿易収支が 2019 年以前の水準(15-19年の5年平均で約+2400億円、10-19年の10年平均で約▲2.6兆円)に戻るのは難しいと考えておきたい。今年の想定が▲6兆円程度だとすれば改善を見込んでも2025年の仕上がりは▲3~4兆円程度だろうか。それでも2022年に記録した過去最大の赤字(約▲20兆円)の5分の1程度に収まるわけだが、日本の貿易収支の歴史では大きな赤字でもあり、これが新常態なのかもしれない。

~肉体労働は頭脳労働に押されるか~

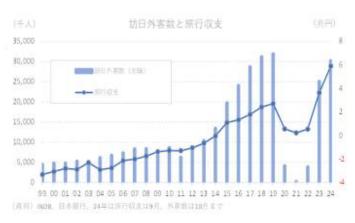
その他の項目については予断を持つのがさらに難しい。第一次所得収支で言えば+40 兆円程度、第二次所得収支で言えば▲4 兆円程度と 2024 年並みの仕上がりと考えておくのが無難だろう。 もちろん、2024 年実績は 2025 年 2 月まで待つ必要があるが、これらの数字は本稿執筆時点で明

らかになっている 1~9 月合計に 2023 年 10~12 月期並みの実績を想定した場合だ。では、残るサービス収支(図)をどう考えるべきか。この点は確実に起きそうな変化が 2 つある。1 つが旅行収支黒字がピークアウトする可能性、もう 1 つがデジタル赤字を主軸とするその他サービス収支赤字の増勢が続く可能性だ。いずれも需給悪化(円売り方向への傾斜)を示唆する事実である。図に示すように、近年のサービス収支は「増大するその他サービス収支(≒デジタル)赤字を旅行収他サービス収支(≒デジタル)赤字を旅行収



支黒字で打ち返す」という構図が定着している。<u>俗に「頭脳労働 vs. 肉体労働」と言われる構図である</u>。人口減の前提を踏まえれば、いずれ頭脳労働が優勢になるという未来は確定しているわけだが、そのような兆候を 2025 年に感じることになるのかどうかが注目である。結論、2025 年も辛うじて近年並みのサービス収支赤字に押さえることはできるのかもしれない。しかし、<u>確実に増え続けるデジタル赤字を旅行収支黒字で相殺し続けることはできないことは知っておきたい</u>。

まず、旅行収支に関しては前年比での増 勢は鈍るだろう。多くの人々は忘れているよ うに思えるが、日本では2023年3月まで水 際対策と称した防疫措置を取っていた。こ れは既に正常化が定着していた当時の世 界経済では極めて特殊な事例として指差さ れていた。今年の旅行収支は過去最大を 記録した 2023 年の約+3.6 兆円からさらに +5 兆円台へ急増し、6 兆円に肉薄する可能 性がある。これほどの増加幅は2023年1~ 3 月期の黒字が政策的に抑制されていた結 果でもある(1~3 月期だけ比較すれば 2023 年は+6615 億円、2024 年は+1 兆 2550 億円 と倍増している)。2025年に同様の変化幅を 期待するのは難しいだろう。言い方を変えれ ば、ようやくパンデミックとは無関係の、地力 としての旅行収支の変化を確認するのが 2025 年になる。この点、人手不足や円安の ピークアウト、日本におけるオーバーツーリ





ズムへの警戒なども踏まえると、旅行収支黒字のピークアウトは2025年に注目したい1つのテーマではある。ちなみに宿泊稼働率は2019年時の水準を未だ超えられているわけではなく、伸び悩みの兆候はある(図・下)。旅行収支黒字は2024年並みを維持できたとして+5兆円程度、ピークアウ

トが顕著になるケースとして+4 兆円から+5 兆円の間といったところだろうか。

~デジタル赤字は伸びる~

一方、旅行収支黒字と対を成すようにその他サービス収支赤字も毎年のように過去最大を更新しており 2023 年は約▲5.9 兆円に達している。このうち、近年注目されるデジタル関連サービスに支払う赤字(以下デジタル赤字)は約▲5.5 兆円で殆ど全てを説明できる。ちなみに 2023 年を例に取れば、日本が輸入する液化天然ガス(LNG)が約▲6.5 兆円、石炭が約▲5.8 兆円であった(原油は約▲11.4 兆円)。今や GAFAM を中心とする米巨大 IT 企業から供給されるデジタルサービスは天然資源と引けを取らないほどの必需品として経済活動にビルトインされている。その性質から需要の価格弾力性は極めて低いため、値上げされても消費は続くことになる。

図に示すように、パンデミックを経てデジタル赤字は急拡大している。2022 年や 2023 年の急拡大は円安地合いが寄与しているとしても、拡大傾向は 2020 年以降の話であり、純粋にデジタルサービスへの需要が急拡大してきたと見るのが妥当だろう。これが2025年に途切れる理由は無い。ちなみに筆者も委員として参加した財務省「国際収支から見た日本経済の課題と処方箋」の第 1 回議事要



旨には「デジタル赤字の背景には、コロナ禍で、学生等にリモート学習のためのツールを配布したこともあるが、これについては、若者への投資という側面もある」との記述がある。パンデミックを契機として遠隔会議や授業、セミナー等を実施するようになったのは教育機関だけではなく、社会のありとあらゆる場所でこれが日常として取り入れられるようになった。今後は企業や教育の現場で AI 活用が頻繁化してくることを思えば、この流れがいつ、どうやって止まるのか想像がつかない。

筆者試算ではデジタル赤字は 2024 年に約▲7 兆円に到達すると見込んでいる。デジタル赤字の前年比変化率に関し、過去 10 年平均を取ると+13%程度だ(デジタル赤字は 2014 年以降しか計算できないので 10 年平均が最も長い平均になる)。仮に、今年が約▲7 兆円だと仮定すれば、2025 年は約▲7.7 兆円まで赤字が膨らみ、その他サービス収支赤字全体では▲8 兆円に肉薄することになる。輸送収支が前年並みの▲6000 億円だとすると、サービス収支赤字は▲3.6 兆円程度(その他サービス収支の赤字▲8 兆円、輸送収支の赤字▲6000 億円、旅行収支の黒字+5 兆円)になる。これはほぼ近年のイメージから逸脱しない程度の赤字水準だ。文字通り、頭脳労働(デジタルサービス)に支払う外貨を必死に肉体労働(観光産業)で相殺し、赤字の拡大を食い止めているという表現が当てはまる。しかし、人口減少が続く限り、頭脳労働に押し負ける未来は不可避であるため、サービス収支赤字が堰を切ったように拡大するタイミングには国として構える必要がある。

~CF ベース経常収支や「家計の円売り」の仕上がりは・・・~

明日以降の本欄では以上のような数字を踏まえた上で 2025 年のキャッシュフロー(CF)ベース

経常収支がどのような仕上がりになりそうなのかを提示したい。また、経常収支以外にも今年の円安要因として大いに注目された「家計の円売り」の存在にも配慮する必要がある。それらも含めれば「円を売りたい人の方が多い」とい需給環境が簡単に変わるとは思えないが、現時点では 2024年と比べて極端な悪化を見込むような必要は無いと考えている。

金融市場部 チーフマーケット・エコノミスト 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065) daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

2004年 月21日 日本
2004年 月26日
2004年11月27日 日本日本でそではロバリ東作業をします。
2024年1月35日 2年5月1日 2年5月2日 2月21日 2月
2004年1月月2日
7004年11月21日
2004年1月19日 日の後期日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日
2024年11月16日 日報にでして「東リに和けらるが野な着人男性 2024年11月17日 20
2004年11月16日
2024年11月12日 下書かの再切りは維持したのか? 2024年11月12日 ドランプロで「保証の基本型」が主義すべきこと 2024年11月12日 ドランプロで「保証の基本型」が主義すべきこと 2024年11月12日 東名の第二の関連によって、大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大
2004年11月13日 トラク-2007年200五年31月15日 トラク-2007年20日17日 トラク-2007年20日17日 日本 (大学)素の円代り1・8 支票を1分配の円代り1・8 支票を1分配の円の1・9 大学・2007年20日日 日本 (大学)を1分配を1分配を1分配を1分配の円の1・9 大学・2007年20日日日日 日本 (大学)を1分配を1分配を1分配の円の1・9 大学・2007年20日日日日日 日本 (大学)を1分配を1分配を1分配を1分配の円の1・9 大学 (大学)を1分配を1分配を1分配を1分配の円の1・9 大学 (大学)を1分配を1分配を1分配を1分配を1分配を1分配を1分配を1分配を1分配を1分配
2024年11月18日 カナラブ207日 高田の東平型 別が整体であること 2024年11月8日 関表が「東京の大田の内外」が、選索が 日本の大田の内外)が、選索が 日本の大田の内外)が、選索が 日本の大田の内外)が、選索が 日本の大田の内外)が、選索が 日本の大田の内外)が、国家が 日本の大田の内外)が、国家が 日本の大田の内外)が、日本の大田の内外
2004年11月18日 ウランプスので「東京の東午里山が主張すぐ名とと 2004年11月18日 対よら東西の内野 11 株主 12 年間 (日本の) 1 日本の
2024年11月1日 日本 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1
2024年11月8日 選集版 プローバスに関連を呼吸・ドランア2014~アンション 2024年11月8日 選集版 選集版 選集版 選集版 2024年10月21日 選集版 選集版 2024年10月21日 選集版 2024年10月21日 2024年10月21日 2024年10月21日 2024年10月21日 2024年10月21日 2024年10月21日 2024年10月12日 2024年10
2024年10月15日
2024年10月26日 日本学校大学に対する。
2024年10月28日
2024年10月21日 アラード東正という物情高力質~最近インプレーマーテー 2024年10月21日 茂泉の月ンプリニション・「大きな一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一
2024年19月21日 接接後を対した動産性物の担張している。 2024年19月12日 乗送後を対している動作物の関係を持続している時間はその後へ 2024年19月13日 東京後後の経営政策事業を終えている時間は接える― ロボルベ) 2024年19月13日 北京後人は安装が出る。
2024年10月21日
2024年10月18日 選家後(1928世界事業を終着で、少別僧性能差のエーロドル〜)
2024年10月1日 インフ帯10条目標をご受け止めるか? 2024年10月1日 スルーされた登れ事業では以びかった「リスタブクの円費」) 2024年10月1日 スルーされた登れ事業では以びかった「リスタブクの円費」) 2024年10月1日 1日 2024年10月1日 2024年10月20日 2024年10日 2024年10日20日 2024年10月20日 2024年10日
2024年10月16日
2024年10月15日 本邦経人投資家の対外資金フロー動向(2024年9月分)
2024年10月11日
2024年10月1日 表示版 2024年10月1日 世論が生のは「テント陸和」ではな「インフレ联和」
2024年10月10日 世論が望むのは「デンルを制」ではなイインフル税却 2024年10月2日 円相場の基礎的意義環境の現状と展望 円の基本とサイナに変更の変更をは、一変開版計を受けて
2024年10月1日
2024年10月8日 門根母の基礎的需動語域の現址と展望
2024年10月1日 円の基本シナリオに変更の必要は?一般用触柱を受けて~ 2024年10月1日 国産版 (9月2番)と日報の「次の一手」 2024年10月1日 百世報 (9月2番)と日報の「次の一手」 2024年10月1日 石電砂カー川は自動が関サージ事でアンを知りの不安~ 2024年10月1日 石電砂カー川は自動が関サージ事でアンを知りの不安~ 2024年10月1日 石電砂カー川は自動が関サージ事でアンを知りの不安~ 2024年10月1日 元電砂カー川は自動が関サージ事でアンを知りの不安~ 2024年10月1日 元電砂カー川は自動が関サージ事でアンを知りの不安~ 2024年10月1日 元電砂カー川は自動が関サージ事でアンを知りの不安~ 2024年10月1日 元間を見まるも自動の日料上げの健島度 2024年10月1日 元間を見まるも自動の日料上げの健島度 2024年10月1日 2024年10月1日 2024年10月1日 2024年10月1日 2024年10月1日 2024年10月1日 2024年10月1日 日間の最もある輸設電を利料面にある機能量を入て予定当社とはより取り 2024年10月1日 日間の最もある輸設電を利料面に対して 2024年10月1日 日間の最もある輸設電を利料面に対して 2024年10月1日 2024年10日
2024年10月4日 妻本版
2024年10月3日 日朝監督(9月間別)と日報の「次の一手」 2024年10月1日 「万曜カラー」は当園が開かってデアンド、日本で、日本で、日本で、日本で、日本で、日本で、日本で、日本で、日本で、日本で
2024年0月2日 日 「も成かつ」に当面が長川でいるで、1024年0月末時点) 2024年9月30日 石破産権が市場にもたらすのは事堂が、失望か 2024年9月25日 電車域には5月割後上日間ので、2024年9月25日 電車域には5月割後上日間ので、2024年9月27日 電車域には5月割後上日間で、2024年9月27日 で、2024年9月27日 で、2024年9月19日 「砂板から」と、2024年9月19日 「砂板から」と、2024年9月19日 「砂板を終えて~思い出される際代議と今後~ 2024年9月19日 「砂板を終えて~思い出される際代議と今後~ 2024年9月19日 「砂板を終えて~思い出される際代議と今後~ 2024年9月17日 円高の重要にある意物を全を・全利室に関わって、2024年9月17日 円高の重要にある意物を全を・全利室に関わって、2024年9月17日 円高の重要にある意物を全を・全利室に関わって、2024年9月17日 円高の重要にある意物を含を・全利室に関わって、2024年9月17日 円高の重要にある意物を含まれて、70回線に2024年9月17日 アンジルボデにまごわた3回線では2023年9月第一 2024年9月18日 との2024年9月18日 2024年9月18日 日の2024年9月18日 アンジルボデにまごわた3回線・火間地り勝ちというバイアス~ 2024年9月18日 大変ルがらかりた。10年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末
2024年9月21日
2024年9月30日
2024年9月30日
2024年9月21日 対策位の外貨比率は最差高へ避けたい日本版トラスショック~ 2024年9月24日 対めて考える日銀町の月出上げの開助度 2024年9月19日 子版
2024年9月25日 会社の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の表現の
2024年9月24日 次ので表る自留切り利上げの意息度 2024年9月19日 「下OMCを終えて、思い出される解代論と今後~ 2024年9月19日 「FOMCを終えて、思い出される解代論と今後~ 2024年9月11日 「日南の背景にある無給改善へ全地接に限らず~ 2024年9月11日 「日南の背景にある無給改善へ金地接に限らず~ 2024年9月11日 「日本 林風人投資家の対外産シフー 動向(2024年月分)
2024年9月19日 FOMCを終えて〜思い出される際代論と今後〜 2024年9月19日 日東労能裁選・各接精の立ち位置と変わらめ前提〜 2024年9月19日 日東労能裁選・各接精の立ち位置と変わらめ前提〜 2024年9月19日 末邦優し投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分) 表邦係し、投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分) 表邦係し、投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分) 表末係にGeb東運車会を終えて〜予定動し表の主以降の不透明感法〜 2024年9月10日 表表が少た家計局門の投資金数・資産登別の兆銭も〜 2024年9月1日 子ジタル赤平上まつわる誘く米国地り勝ちというパイプス〜 2024年9月1日 子ジタル赤平上まつかる誘く米国地り勝ちというパイプス〜 2024年9月1日 2024年9月1日 大児海東空瀬化とコーロ相場について 2024年9月1日 大児森からか月~市場は安定を取り戻したか〜 2024年9月3日 大児森からか月~市場は安定を取り戻したか〜 2024年9月3日 大児森からか月~市場は安定を取り戻したか〜 2024年9月3日 日原の自然利子単生計について「中立金利19。版を 2024年9月3日 日原の自然利子単生計について「中立金利19。版を 2024年9月21日 アルブルル連渡を計でへ第1とる労働市場への影響を 2024年9月21日 アルブルル連渡を対すて、第1との労働を対し、アルブルル連渡を対すで、第1との労働組を対し、アルブルの影響へ 2024年9月21日 東京仮とGeb東電車を受けて、ベニーロ相場の先行きについて〜 2024年9月19日 京中学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2024年9月19日
2024年9月19日 日東労政裁選―会接稿の立ち位置と変からぬ前提〜 2024年9月19日 末寿曜人投資家の対外資金プロ一動向(2024年9月分)
2024年9月13日
本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分)
選末版 (ECB放策理事会会校えて~予定通り4.55年以降の不透明感強く~) 2024年9月19日
2024年9月18日 支公なか・大阪計画門の投資を飲・賃を選別の兆鉄や〜 2024年9月8日
2024年9月9日
2024年9月9日 デシタル赤字にまつわる誘線~米国独り勝ちというバイアス~ 2024年9月9日 ドイツ産業空洞化とユーロ相場について 2024年9月3日 によいよ注目され始めたドイツの産業空洞化 2024年9月3日 温末版 2024年9月3日 温末版 2024年9月3日 温末版 2024年9月3日 に表からい方・で一位立金利1%」説~ 2024年9月29日 関欧自然利子率推計について「中立金利1%」説~ 2024年9月29日 関欧自然利子率推計について「中立金利1%」説~ 2024年9月26日 ドル売りの持続性は?一貫われるユーロ、麦ボンド、円~ 2024年9月21日 温末版(ECB政策理事金論事要旨を受けて~ユーロ相場の先行きについて~) 2024年8月21日 用ロングの積み上げが成り及がはあるのか 2024年8月21日 関アPP vs. サービスPPP~正しいのは日東京、円高か~ 2024年8月19日 関アPP vs. サービスPPP~正しいのは日東京、円高か~ 2024年9月19日 関アPP vs. サービスPPP~正しいのは日東京、円高か~ 2024年9月19日 関東 Mg Wg Mg
2024年9月5日
2024年9月3日
2024年9月3日
2024年8月30日 次混乱から1か月~市場は安定を取り戻したか?~ 2024年8月30日 週末版
2024年8月30日 選末版
2024年8月29日 日銀の自然利子事推計についてベー中立金利1961説や 2024年8月27日 ドル売りの持続性は?~買われるユーロ、英ポンド、四~ 2024年8月23日 国末版(CBB政策理事会議事要旨を受けて~ユーロ相場の先行きについて~) 2024年8月23日 国末版(CBB政策理事会議事要旨を受けて~ユーロ相場の先行きについて~) 2024年8月21日 7012年8月20日 企業買収を通じた対内直接投資の現状について 2024年8月19日 対PPP、サービスPPP~正しいのは円安か、円高か~ 2024年8月19日 対PPP、サービスPPP~正しいのは円安か、円高か~ 2024年8月19日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分) ボスト岸田の考え方~金融収変の大勢に影響なレ~ 2024年8月16日 国来版((円身成で力が)) 表示の機会は関立してべし手不足から需要不足へ~) 2024年8月16日 24年上半期の需給環境について~ほぼ均衡~ 2024年8月18日 投機が去った日相場・注目は「家計の円売り」へ~ 2024年8月18日 円安パブル) 報道について②トロジの5-07年との比較分析~) 2024年8月8日 日東水版(「円安パブル) 報道について②トロジの5-07年との比較分析~) 2024年8月8日 国銀会合を受けて~ドル/円相場の考え方~ 2024年8月8日 国銀会合を受けて~ドル/円相場の考え方~ 2024年7月25日 国来版(「日安北 2024年7月25日 国来版(「日政計 2024年7月28日 2024年7月28日 2024年7月28日 2024年7月19日 国銀会合プレビュー~円高だからこそ利上げ~ 2024年7月19日 国銀会のゴノンレ税による財政再建~資金循環統計~ 2024年7月19日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月1日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月1日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月1日 最近の円相場の需給環境保の大力・組入の読み方 2024年7月1日 東近の円相場の需給環境保険について 2024年7月1日 短の日相場の需給環境保険・と参行が場の構成 2024年7月1日 2024年7月1日 短の日相場の需給環境について 2024年7月1日 短の日相場の需給環境について 2024年7月1日 短が日間はか常味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月2日 2024年7月1日 短の行うた金融市場の構成 2024年7月1日 短の行方と金融市場の構成 2024年7月1日 2024年7月1日 短の行うなの情報が関係である。 2024年7月1日 2024年7月1日 短の行うなの情報が関係である。 2024年7月1日
2024年8月21日 ドル売りの持続性は?~質われるユーロ、英ボンド、円~ 2024年8月21日 バウエル講演を受けて~気になる労働市場への評価~ 2024年8月21日 田ロングの積み上げが続くリスクはあるのか 2024年8月21日 田ロングの積み上げが続くリスクはあるのか 2024年8月19日 放射 2024年8月19日 対する 2024年8月19日 対する 2024年8月19日 大工・単田の考え方~金融政策の大勢に影響なし~ 2024年8月19日 大工・単田の考え方~金融政策の大勢に影響なし~ 2024年8月19日 投機が去力と円相場・注目して「日ぼ均衡~ 2024年8月19日 投機が去力と円相場・注目して「日ぼ均衡~ 2024年8月19日 投機が去力と円相場・注目して「日ぼ均衡~ 2024年8月19日 辺を 2024年8月19日 辺を 2024年8月19日 辺を 2024年8月19日 辺を 2024年8月19日 辺を 2024年8月19日 辺を 2024年8月19日 国来版(「日度は変わった」はいつまで続くか~「やっぱり変わっていなかった」の怖さ~) 2024年8月1日 日銀会会を受けて・ドル/円相場の考え方~ 2024年7月25日 コま版 2024年7月25日 コま版 2024年7月19日 辺を 2024年7月19日 辺を 2024年7月19日 辺を 2024年7月19日 辺を 2024年7月19日 近を 2024年7月19日 世紀会合プレビュー~日高だからこそ利上げ~ 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」・利上げへの追い風~ 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」・利上げへの追い風~ 2024年7月11日 地を インプレ税は 2024年7月11日 地で 2024年7月11日 地が 2024年7月11日 2024年7月11日 2024年7月11日 地が 2024年7月11日 2024年7月11日 2024年7月2日 2
2024年8月28日 パウエル講演を受けて〜気になる労働市場への評価〜
2024年8月23日
2024年8月21日 円ロングの積み上げが続くリスクはあるのか 2024年8月19日 放棄 収率通じた対内直接投資の現状について 2024年8月19日 財 財 財 財 財 財 財 財 財
2024年8月19日 対PPP vs. サービスPPP ~ 正しいのは円安か、円高か~ 2024年8月19日 対PPP vs. サービスPPP ~ 正しいのは円安か、円高か~ 2024年8月15日 週末版 仮外経済の現状について~人手不足から需要不足へ~) 2024年8月15日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分) ポスト岸田の考え方~金融政策の大勢に影響な~ 2024年8月14日 24年上半期の需給環境について~足ぼ均衡~ 2024年8月13日 投機が去った円相場~注目は「家計の円売り」へ~ 2024年8月8日 「円安パブル」報道について②~2005-07年との比較分析~) 2024年8月8日 「円安パブル」報道について①~05-07年との比較分析~ 2024年8月1日 週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか~「やっぱり変わっていなかった」の怖さ~) 2024年8月1日 日銀会合を受けて~ドル/円相場の考え方~ 2024年7月25日 週末版 2024年7月25日 週末版 2024年7月25日 月から「質」の意味するもの 2024年7月28日 パイデン撤退も市場動かず~円ショートは依然膨大~ 2024年7月18日 日銀会合プレビュー~円高だからこそ利上げ~ 2024年7月17日 進むインフル税による財政再建~資金循環統計~ 2024年7月17日 進むインフレ税による財政再建~資金循環統計~ 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」~利上げへの追い風~ 2024年7月17日 進むインフレ税による財政再建~資金循環統計~ 2024年7月11日 株団・正真正銘のパブル超え」の読み方 2024年7月11日 株価、「正真正銘のパブル超え」の読み方 2024年7月10日 果近の門相母の需給環境について 2024年7月1日 米大統領選挙、現時点の解釈~為替市場の視点~ 2024年7月1日 米大統領選挙、現時点の解釈~為替市場の視点~ 2024年7月1日 現近の円相母の需給環境について 2024年7月1日 米大統領選挙、現時点の解釈~為替市場の視点~ 2024年7月1日 現近の円相母の需給環境について
2024年8月19日 財PPP vs. サービスPPP~正しいのは円安か、円高か~ 2024年8月16日 週末版 (欧州経済の現状について〜人手不足から需要不足へ〜) 2024年8月15日 本邦個人投資家の対外資金プロ一動向(2024年7月分) ポスト洋田の考え方〜金融政策の大勢に影響なし~ 2024年8月14日 24年上半期の需給環境について〜にぼ均衡~ 2024年8月13日 投機が去った円相場〜注目は「家計の円赤り」へ〜 2024年8月8日 週末版(円安バブル)報道について②~2005-07年との比較分析〜) 2024年8月8日 「円安バブル」報道について③~05-07年との比較分析〜 2024年8月1日 日銀会合を受けてベドル/円相場の考え方〜 2024年8月1日 日銀会合を受けてベドル/円相場の考え方〜 2024年7月25日 週末版 (日銀は変わった」はいつまで続くか〜「やっぱり変わっていなかった」の怖さ〜) 2024年7月25日 週末版 (2024年7月25日 週末版 (2024年7月26日 週末版 (2024年7月27日) 週末版 (2024年7月27日) 週末版 (2024年7月19日 週末版 (2024年7月19日 週末版 (2024年7月19日 1月銀会合プレビュー〜円高だからこそ利上げ〜 2024年7月19日 1月銀会合プレビュー〜円高だからこそ利上げ〜 2024年7月16日 復活しつつある「インフルの輸入」へ利上げへの追い風〜 2024年7月16日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年0月分) 週末版 (金利差に騒がない大事さ〜問題は投機が去った後〜) 2024年7月18日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月3日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月3日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月3日 2024年7月4日 円安功罪論について ※総論と各論を分けるべし〜 2024年7月4日 円安功罪論について ※総論と各論を分けるべし〜 2024年7月4日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年8月16日 週末版(欧州経済の現状について〜人手不足から需要不足へ〜) 2024年8月16日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分) ボスト岸田の考え方〜金融政策の大学製に影響なし〜 2024年8月18日 24年上半期の需給環境について〜ほぼ均衡〜 2024年8月19日 担策が去った円相場〜注目は「家計の円売リ」へ〜 2024年8月9日 週末版(「円安パブル」報道について()〜2005-07年との比較分析〜) 2024年8月9日 週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか〜「やっぱり変わっていなかった」の怖さ〜) 2024年8月1日 日銀会合を受けて〜ドル/円相場の考え方〜 2024年7月25日 週末版 2024年7月26日 フルパウンド、「量」から「質」の意味するもの 2024年7月27日 オンパウンド、「量」から「質」の意味するもの 2024年7月19日 別ま版(ECB政策理事会を終えて〜『貴金は必ず下がる」という自信〜) 2024年7月18日 日銀会合プレビュー〜円高だからこそ利上げ〜の。2024年7月16日 復活しつつある「インフレ税による財政再建〜資金循環統計〜 2024年7月16日 復活しつつある「インフレ税による財政再建〜資金循環統計〜 2024年7月16日 復活しつつある「インフレ税による財政再建〜資金循環統計〜 2024年7月17日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ〜問題は投機が去った後〜) 2024年7月18日 表近の円相場の需給環境について 2024年7月18日 表近の円相場の需給環境について 2024年7月18日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月19日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月19日 別報(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月3日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年8月15日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分)
ポスト岸田の考え方~金融政策の大勢に影響なし~ 2024年8月14日 24年上半期の需給環境について~ほぼ均衡~ 2024年8月19日 規機が去った円相場~注目は「家計の円売り」へ~ 2024年8月9日 週末版(「円安バブル」報道について②~2005-07年との比較分析~) 2024年8月18日 「円安バブル」報道について②~2005-07年との比較分析~ 2024年8月12日 月銀会合を受けて~ドル/円相場の考え方~ 2024年7月25日 週末版 (「日銀は変わった」はいつまで誘くか~「やっぱり変わっていなかった」の怖さ~) 2024年7月25日 週末版 2024年7月25日 週末版 2024年7月29日 インバウンド、「量」から「質」の意味するもの 2024年7月19日 週末版 (ECB政策理事会を終えて~「賃金は必ず下がる」という自信~) 2024年7月19日 月銀会合プレビュー~円高だからこそ利上げ~ 2024年7月19日 復活しつある「インフレの輸入」へ利上げへの追い風~ 2024年7月19日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月1日 株価、「正真正銘のバブル超え」の読み方 2024年7月1日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月1日 日最近の円相場の需給環境について 2024年7月1日 日安功罪論について~終論と各論を分けるべし~ 2024年7月4日 円安功罪論について~終論と各論を分けるべし~ 2024年7月4日 円安功罪論について~終論と各論を分けるべし~ 2024年7月3日 知報(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月3日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年8月14日 24年上 期の需給環境について~ほぼ均衡~ 2024年8月13日 投機が去った円相場~注目は「家計の円売り」へ~ 2024年8月9日 週末版(「円安パブル」報道について②~2005-07年との比較分析~) 2024年8月8日 「円安パブル」報道について①~05-07年との比較分析~ 2024年8月2日 週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか~「やっぱり変わっていなかった」の怖さ~) 2024年8月1日 日銀会合を受けて~ドル/円相場の考え方~ 2024年7月25日 週末版 2024年7月26日 インパウンド、「量」から「質」の意味するもの 2024年7月27日 インパウンド、「量」から「質」の意味するもの 2024年7月19日 週末版(ECB政策理事会を終えて~「賃金は必ず下がる」という自信~) 2024年7月19日 週末版(ECB政策理事会を終えて~「賃金は必ず下がる」という自信~) 2024年7月17日 進むインフレ税による財政再建~資金循環統計~ 2024年7月17日 復活しつつある「インフレの輸入」~利上げへの追い風~ 2024年7月18日 フジェイア月18日 フジェイア月18日 復活しつかる「インフレの輸入」~利上げへの追い風~ 2024年7月17日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利達に騒がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月3日 欠り罪能についての議と各権を分けるべし~ 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月3日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年8月13日 投機が去った円相場~注目は「家計の円売り」へ~ 2024年8月9日 週末版(「円安パブル」報道について①~205-07年との比較分析~) 2024年8月2日 週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか~「やっぱり変わっていなかった」の怖さ~) 2024年8月1日 日銀会合を受けて~ドル/円相場の考え方~ 2024年7月25日 週末版 2024年7月26日 パイデン撤退も市場動かず~円ショートは依然膨大~ 2024年7月19日 週末版(CB政策理事会を終えて~「賃金は必ず下がる」という自信~) 2024年7月19日 週末版(CB政策理事会を終えて~「賃金は必ず下がる」という自信~) 2024年7月19日 超会合プレビュー~円高だからこそ利上げ~ 2024年7月10日 復活しつつある「インフレの輸入」~利上げへの追い風~ 2024年7月11日 推価、「正真正銘のパブル超え」の読み方 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月10日 別表が成いた事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月10日 別表が成い大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月10日 別表しての日場の需給環境について 2024年7月10日 別表しての日場の需給環境について 2024年7月3日 別表しての日場の常給ではいたといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといると
2024年8月9日 週末版(「円安バブル」報道について②~2005-07年との比較分析~) 2024年8月8日
2024年8月8日
2024年8月2日 週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか~「やっぱり変わっていなかった」の怖さ~) 2024年7月25日 日銀会合を受けて~ドル/円相場の考え方~ 2024年7月26日 フルパウンド、「量」から「質」の意味するもの 2024年7月27日 インパウンド、「量」から「質」の意味するもの 2024年7月27日 週末版(ECB政策理事会を終えて~「賃金は必ず下がる」という自信~) 2024年7月18日 日銀会合プレビュー~一周だからこそ利上げ~ 2024年7月18日 とびとサイア 日銀会会が上による財政再建~資金循環統計~ 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」~利上げへの追い風~ 2024年7月17日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金別法に基金がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月17日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月18日 米大統領選挙、現時点の解釈~為替市場の視点~ 2024年7月3日 短線(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月3日 短線(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月3日 短線(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月3日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年8月1日 日銀会合を受けて~ドル/円相場の考え方~ 2024年7月25日 週末版
2024年7月25日 週末版 2024年7月24日
2024年7月24日 インバウンド、「量」から「質」の意味するもの 2024年7月23日 バイデン撤退も市場動かず〜円ショートは依然膨大〜 2024年7月19日 週末版(ECB政策理事会を終えて〜「賃金は必ず下がる」という自信〜) 2024年7月18日 日銀会プレビュー〜円高だからこそ利上げ〜 2024年7月17日 進むインフレ税による財政再建〜資金循環統計〜 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」〜利上げへの追い風〜 2024年7月17日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ〜問題は投機が去った後〜) 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月4日 円安功罪論について〜総論と各論を分けるべし〜 2024年7月3日 短観(6月割査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月3日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月19日 週末版(ECB政策理事会を終えて~(賃金は必ず下がる」という自信~) 2024年7月18日 回銀会台プレビュー~円高だからこそ利上げ~ 2024年7月17日 進むインフレ税による財政再建~資金循環統計~ 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」~利上げへの追い風~ 2024年7月17日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月3日 米大統領選挙、現時点の解釈~為替市場の視点~ 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月3日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月19日 週末版(ECB政策理事会を終えて~「賃金は必ず下がる」という自信~) 2024年7月18日 日銀会合プレビュー~円高だからこそ利上げ~ 2024年7月17日 進むインフレ税による財政再建~資金循環統計~ 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」~利上げへの追い風~ 2024年7月12日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月11日 株価、「正真正銘のバブル超え」の読み方 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月8日 米大統領選挙、現時点の解釈~為替市場の視点~ 2024年7月3日 短親(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月3日 短親(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月18日 日銀会合プレビュー〜円高だからこそ利上げ〜 2024年7月17日 進むインフレ税による財政再建〜資金循環統計〜 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」〜利上げへの追い風〜 2024年7月12日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ〜問題は投機が去った後〜) 2024年7月11日 株価、「正真正銘のバブル超え」の読み方 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月10日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月4日 円安功罪論について〜総論と各論を分けるべし〜 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月3日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月17日 進むインフレ税による財政再建〜資金循環統計〜 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」〜利上げへの追い風〜 2024年7月12日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ〜問題は投機が去った後〜) 2024年7月11日 株価、「正真正銘のパブル超え」の読み方 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月8日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月4日 円安功罪論について〜総論と各論を分けるべし〜 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月17日 進むインフレ税による財政再建~資金循環統計~ 2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」〜利上げへの追い風〜 2024年7月12日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事を~問題は投機が去った後〜) 2024年7月11日 株価、「正真正銘のパブル超え」の読み方 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月8日 米大統領選挙・現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月4日 円安功罪論について〜総論と各論を分けるべし〜 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月3日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月16日 復活しつつある「インフレの輸入」~利上げへの追い風~ 2024年7月12日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分) 週末版(金利差に騒がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月11日 接価、「正真正銘のバブル超え」の読み方 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月8日 米大統領選挙、現時点の解釈~為替市場の視点~ 2024年7月4日 円安功罪論について~総論と各論を分けるべし~ 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの~利上げは可能か~ 2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月12日 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分)
週末版(金利差に騒がない大事さ~問題は投機が去った後~) 2024年7月11日 株価、「正真正銘のパブル超え」の読み方 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月8日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月4日 円安功罪論について〜総論と各論を分けるべし〜 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月11日 株価、「正真正銘のバブル超え」の読み方 2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月8日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月4日 円安功罪論について〜総論と各論を分けるべし〜 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月10日 最近の円相場の需給環境について 2024年7月8日 米大統領選挙・現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月4日 円安功罪論について〜総論と各論を分けるべし〜 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月8日 米大統領選挙、現時点の解釈〜為替市場の視点〜 2024年7月4日 円安功罪論について〜総論と各論を分けるべし〜 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月4日 円安功罪論について〜総論と各論を分けるべし〜 2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月3日 短観(6月調査)が意味するもの〜利上げは可能か〜 2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月2日 フランス政局の行方と金融市場への影響
4047十7月1日 44十二十別で称んして日は正共正知の取別班目で
2002年6月28日 週末版
2024年6月27日 家計金融資産の現状~外貨比率は最高値更新へ~
2004年6月25日 「隠れ四女」への正しい理解~実効円安を見る努力を~
2024年6月24日 為替政策報告書~日本のリスト入りは形式上の不備~
2024年6月21日 週末版(欧州委員会による財政是正措置勧告~フランス極右政党 vs. 欧州委員会~)
2024年6月19日 本邦5月貿易収支を受けて〜思ったよりも減らない赤字〜